

相続対策は日経で!

相続税なんて「自分には関係ない」と思っていないですか？
確かにこれまで、相続税は「一部のお金持ちの税金」でした。
でも来年からは様変わりです。
増税の中身と、正しい対応策を身につけましょう。

専門記者の解説記事を相続対策の参考に。

来年1月から相続税の基礎控除額が現行の6割に下がります。これにより相続税を支払う必要がある人は現在の2倍近くになると言われています。これまで相続税とは無縁だと思っていた方も、いざ相続となったときに慌てることになりかねません。

相続の対象となるのは主に宅地や預貯金。2014年の基準地価が発表になりましたが、景気の緩やかな回復を反映し、三大都市圏では地価上昇の傾向が鮮明になってきています。

そこで考えなければならないのが相続税の節税です。日本経済新聞紙上では、これまでもたびたび相続税の節税対策を紹介しています。

「相続のいろは」 9月24日より
随時掲載中。

M&I (マネー&インベストメント)面(毎週、水曜日、土曜日)も参考に。

2014年9月24日(水)日本経済新聞朝刊

来年1月1日から相続税が増税になる。基礎控除と呼ばれる非課税の枠が4割も減るためだ。これまで相続税とは無縁だと思っていた人も税金を支払う必要が出てくる可能性がある。税のしくみはどう変わるのか、どう対応したらいいのか、連載で解説する。「相続税がたいへんだ」。東京の税理士法人

相続のいろは 税が変わる ①

4割も減る非課税枠

レガシーには毎年、たくさんの方が相続にやってくる。その大半は相続する実家が東京の中心部にある人だ。だが、「来年からは郊外の不動産を引き継ぐ場合も相続税がかかってくる」と天野隆代表は話す。夫が亡くなり、妻が自宅や預金を相続する場合は、1億6000万円の税額控除がある。この特例は来年1月以降も変わらないので、よほどのお金持ちでない限り、相続税はかからない。相続税が発生するのは、両親が亡くなり、子どもが財産を受け取る時だ。

負担する人、2倍に

基礎控除(非課税枠)が縮小する			
現在	法定相続人の数	現在	来年1月1日から
5000万円 + 1000万円 × 法定相続人の数	1人	6000万円	3600万円
	2人	7000万円	4200万円
	3人	8000万円	4800万円
	4人	9000万円	5400万円
	5人	1億円	6000万円

↓ 4割減 ↓

来年1月1日から	法定相続人の数	現在	来年1月1日から
3000万円 + 600万円 × 法定相続人の数	1人	3000万円	1800万円
	2人	3600万円	2160万円
	3人	4200万円	2520万円
	4人	4800万円	2880万円
	5人	5400万円	3240万円

相続税には相続人が1000万円まで基礎控除がある。このため相続税が20万円以下の地域では、相続税がかからない。それが、慌てることになりかねない。(随時掲載)

日経の読み方

紙上講座

新聞は「面」でできている

新聞紙面は無造作に記事を埋めて作っているわけではありません。忙しい方に効率良く新聞を読んでもらうために、見出しや記事そのものの大きさをニュースの重要性を示しているだけでなく、「面建て」でどの記事がどこに書いてあるのかを分かるようにしています。新聞の奇数面は左上に、偶数面は右上にある数字はページ数を表していますが、その横に「経済」とか「国際」とか、ニュースのジャンルが記載されています。これを面建てといいます。1面から3面までは特にジャンルはありませんが、ジャンルを問わずその日の

第7回 「面建て」は読みやすさの秘訣

前回の講座では、新聞の特長として「一覧性」と「セレンディピティ」(思わぬ発見をする能力)を紹介しました。今回はその話を少し掘り下げてみましょう。

重要なニュースが掲載されています。この面建てが一覧性とセレンディピティに貢献しています。

「面」ごとにニュースを読み、「コラム」を読む

それぞれの面には、それぞれの面建てに関する記事がまとめて掲載されています。経済ニュースに関心があれば経済面、国際ニュースに関心があるなら国際面という具合です。そして、それぞれの面ごとに「大事なニュース」が目飛び込んでくるように見出しやレイアウトに工夫がされています。新聞の「一覧性」の特長はニュースがジャンル分けされた上での一覧性なのです。

新聞を読みなれてくると、それぞれのページをめくると、「ここは〇〇のニュース」ということが自然と意識に上ってくるようになります。そのためには、必ず読むコラム(囲み記事)を見つけることも大切です。コラムは毎日決まった面のほぼ決まった場所に毎日あるいは定期的に掲載されています。また、コラムを読むことで、様々なニュースについての考え方やその影響を考えるヒントにもなります。そして、より幅広いニュースに関心を持てるようになり、多くの見出しに目をやるようになり、セレンディピティなニュースが見つかるようになります。

続きは次号で!